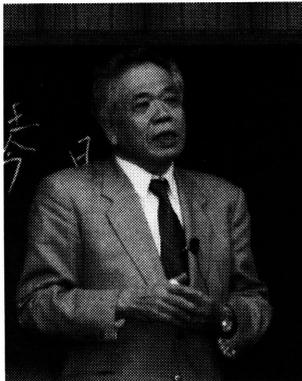


執筆者紹介



*王勇 (WANG Yong) 浙江大学教授・同大学日本文化研究所所長、平成12年度国文学研究資料館客員教授。北京日本学研究中心大学院日本文化専攻修了。研究分野は古代中日文化交流史。日本語の著書に『聖徳太子時空超越』(大修館書店、1994)、『唐から見た遣唐使』(講談社、1998)、『中国史のなかの日本像』(農山漁村文化協会、2000) などがある。



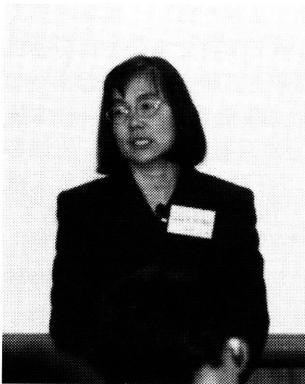
*小池正胤 (こいけ・まさたね) 東京学芸大学名誉教授、国際日本文学研究集会委員会委員。東京教育大学大学院修了。研究分野は近世文学、特に草双紙。著書に『膝栗毛の世界』(日本放送出版協会、1996)『草双紙集』(共著、岩波書店、1997)、編著に『江戸の絵本 初期草双紙集成』(国書刊行会、1987~1989) などがある。



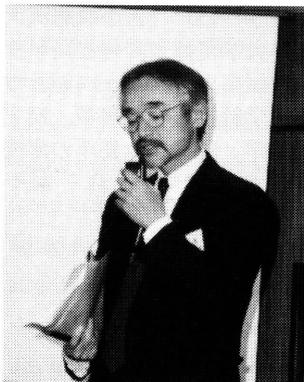
*林晃平 (はやし・こうへい) 苫小牧駒沢大学助教授。國學院大學大学院博士課程後期単位取得退学、苫小牧駒沢短期大学講師、同助教授、駒沢大学苫小牧短期大学教授を経て現職。研究分野は日本文学・民俗学。著書に、長年の研究をまとめた『浦島伝説の研究』(おうふう、2001) がある。



*松尾剛次（まつお・けんじ） 山形大学教授。東京大学大学院博士課程修了、山形大学人文学部助教授を経て現職。研究分野は中世を中心とする日本宗教史。著書に『鎌倉新仏教の成立』（吉川弘文館、1988、新版1998）『勸進と破戒の中世史』（吉川弘文館、1995）『救済の思想』（角川書店、1996）などがある。



*Lynne K. Miyake（リン・K・三宅） ポモナ大学準教授。1979年10月より約2年文部省研修留学生（東北大学文学部）。1997年同志社大学 Associated Kyoto Program客員教授。2001 Japan Foundation Fellow（弘前大学人文学部）。研究分野はフェミニスト理論、物語論、ポスト構造主義理論、中古・古典文学。著書に“Through the Eyes of a Court Lady?: Gender, Class, and the Challenge to the Field of Classical Japanese Literature” (*U.S.-Japan Women's Journal, English Literature Supplement*, 18, 2000), “The Tosa Diary: In the Interstices of Gender and Criticism” (*The Woman's Hand: Gender and Theory in Japanese Women's Writing*. Stanford: Stanford Press, 1996) などがある。



*鈴木淳（すずき・じゅん） 国文学研究資料館教授。國學院大學大学院文学研究科博士課程退学後、國學院大學日本文化研究所助教授、国文学研究資料館助教授を経て現職。研究分野は近世の和学、歌文および絵画、書など。著書に『近世随想集』（共著、新編日本古典文学全集、小学館、2000）『近世歌文集 下』（共著、新日本古典文学大系、岩波書店、1997）、『江戸和学論考』（ひつじ書房、1997）などがある。



* 齊藤愛 (さいとう・あい) 日本学術振興会特別研究員。筑波大学大学院文芸言語研究科文学専攻博士課程単位取得退学。2000年1月より現職。研究分野は近代日本文化。論文に「翻訳のクロノトポス—明治期における翻訳行為と暴力—」(『植民地主義とアジアの表象』1999・3)、「〈政治〉と〈文学〉との間で—坪内逍遙『内地雑居未来之夢』の中の外国人像—」(『日本語と日本文学』25、1997・8) などがある。



* 王麗萍 (WANG Li-ping) 大谷大学大学院文学研究科博士後期課程在籍。研究分野は宋代中日文化交流史。論文に「『參天台五臺山記』に見える文書について」(『仏教史学研究』第42巻第1号、1999年9月)、「成尋の先人たちを懐く旅—『參天台五臺山記』を史料として—」(『アジア遊学』第4号、1999年5月)、「宋代の公凭について」(大谷大学大学院『研究紀要』第17号、2000年12月) などがある。



* Joshua S. MOSTOW (ジョシュア・モストウ) ブリテイッシュ・コロンビア大学準教授。ペンシルヴァニア大学大学院において博士号取得。研究分野は日本古典文学・日本美術史。著書に、*Pictures of the Heart: The Hyakunin Isshu in Word and Image*. University of Hawai'i Press, 1996、論文に「日本美術における王朝の「みやび」」(東京国立文化財研究所編『語る現在、語られる過去 日本美術史学100年』平凡社、1999) などがある。



*趙美京 (CHO Mee Kyoung) 筑波大学大学院生。韓国高麗大学卒業、同大学院修士課程修了後、筑波大学博士課程文芸・言語研究科に在籍、研究分野は日本現代文学。論文に「現代文学の課題としての多民族社会—大江健三郎の「幸福な若いギリアク人」論—」(『多文化社会における〈翻訳〉』筑波大学文化批評研究会、2000.6)、「大江健三郎の〈他者〉表象—『青年の汚名』をめぐって—」(『日本語と日本文学』31、2000.8)がある。



*表世晩 (PYO Se Man) 神戸大学大学院生。韓国高麗大学校・同大学院修士課程修了後、1998年4月から神戸大学大学院文化科学研究科博士課程に在籍。研究分野は明治小説及び政治小説。論文に「矢野龍溪の文学改良—『経国美談』に現れた「娯楽」としての「実用性」と想像力を中心に—」(『国文学研究ノート』、1998・11)、「『浮城物語』の国家意識—西南戦争と上井清太郎の「常情」を中心に—」(『国文論叢』、2000・3)がある。



*腮尾尚子 (あぎお・なおこ) お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)比較文学専攻在籍。お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業、同大学院人文科学研究科(修士課程)日本文学専攻修了後、桐朋女子中学高等学校専任教諭として4年間勤務。近世文学の挿絵と仏教美術との関わりについて研究。論文に「絵銭と戯作・戯画」(『国文』92号、2000・1)、「『大悲千祿本』試論—絵の読みをもとにして—」(『人間文化論叢』2号、2000・3)などがある。



*Haruko IWASAKI (岩崎はる子) カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校準教授。金沢大学文学部卒業、ハーバード大学東アジア言語文化学部にて博士号取得、同学部助教授・準教授（日本語）を経て1993年より現職（東アジア言語文化）。研究分野は近世の戯作。論文に、“Water, Water, Every Where: The Epic Space in Yumiharizuki by Hokusai and Bakin” (*Proceedings of the Third International Hokusai*, Obuse City, 1998) などがある。